

観光の個人化・分散化を実現するためのユーザ生成コンテンツの統合分析・共有基盤の構築

研究機関：京都大学

研究代表者：馬 強

共同研究機関：なし



研究の背景

観光業は日本経済を支える極めて重要な成長分野である。観光の経済波及効果は大きく、持続可能な観光立国・地域社会の実現には、観光客は勿論、地域住民も含めたより多くの人々が満足できる観光社会のデザインと構築が必要です。

高齢者や障害者を始め、より多くの人々が旅を楽しむための観光の個人化及び地域住民の日常生活への副作用を最小限に抑えて快適性を維持し、観光の恩恵を地方に分配するための観光の分散化を実現するためには、ユーザの多様なニーズや要望の分析、多様な観光資源の発掘とプロモーションを効率的・効果的に可能とする情報基盤技術が必要となります。

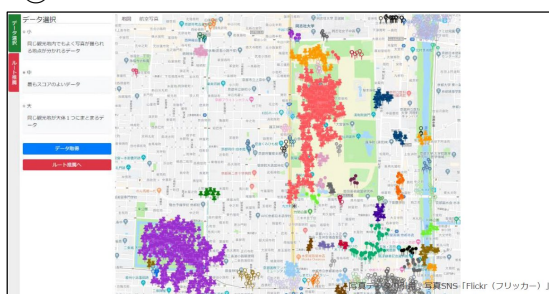
委託業務の結果、得られた研究成果の概要

経産省の「令和2年度商業・サービス競争力強化連携支援事業（新連携支援事業）」に採択された京なかが株式会社に協力して、開発技術の事業化に向けて開発や実証について取り組んでいる。令和3年度からはSCOPE研究開発の支援を受けて、開発した基盤技術を用いて構築される地域知の利活用、例えば、スポット推薦やルート推薦に関する基盤技術と応用に関する研究を行っている。

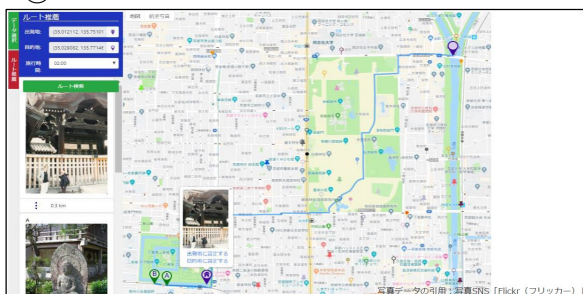
平成30年7月から「観光客の誘導に関する実践的な研究」をテーマにした共同研究で、ユーザーの属性・移動履歴・位置情報、並びに観光コンテンツ・地域の行事情報等を用いた観光コースの推奨等ができないか検討を重ねた。

出発地と目的地と所要時間を指定すると、観光ルートをクラウド上で表示する簡易ツール「E-trip（イートリップ）」を平成31年2月に試作している。「E-trip」では、①写真が撮られているスポットをマップ上に表示する他、②写真をクリックし、出発地、目的地、旅行時間を選ぶと、ルートを表示するため、各スポットについては、写真も表示することで、イメージをつかんでもらえる。

①



②



【出展元「E-trip 京なかがGOZAN」】

現状と今後の展開等

観光客の属性・移動履歴、観光ルート推薦等に関する技術の提供と共同研究開発を進めています。研究成果を活用して、四方よしの持続可能な観光社会の実現にむけて、地元の中小企業と連携して実用化・事業化に向けた検証と開発を進めています。

研究代表者

研究機関名	京都大学		
担当者	馬 強	所属・役職	大学院情報学研究科 准教授